

KODAK COLOR CONDITION CHARTS
LICENSED PRODUCT
© The Munsell Color Services Laboratory, 2000



雲
妙
間
雨
夜
月
壹

13
194

13
195
1



四

新刊自

古

百

駿來志

大川

東

於 195

崖

雕

而

鳴

川

牛

山

穉

旗

斷

學

立

雙

大

言

辭

文

足

明治三十年十月十日

千葉鐵藏

於

隸

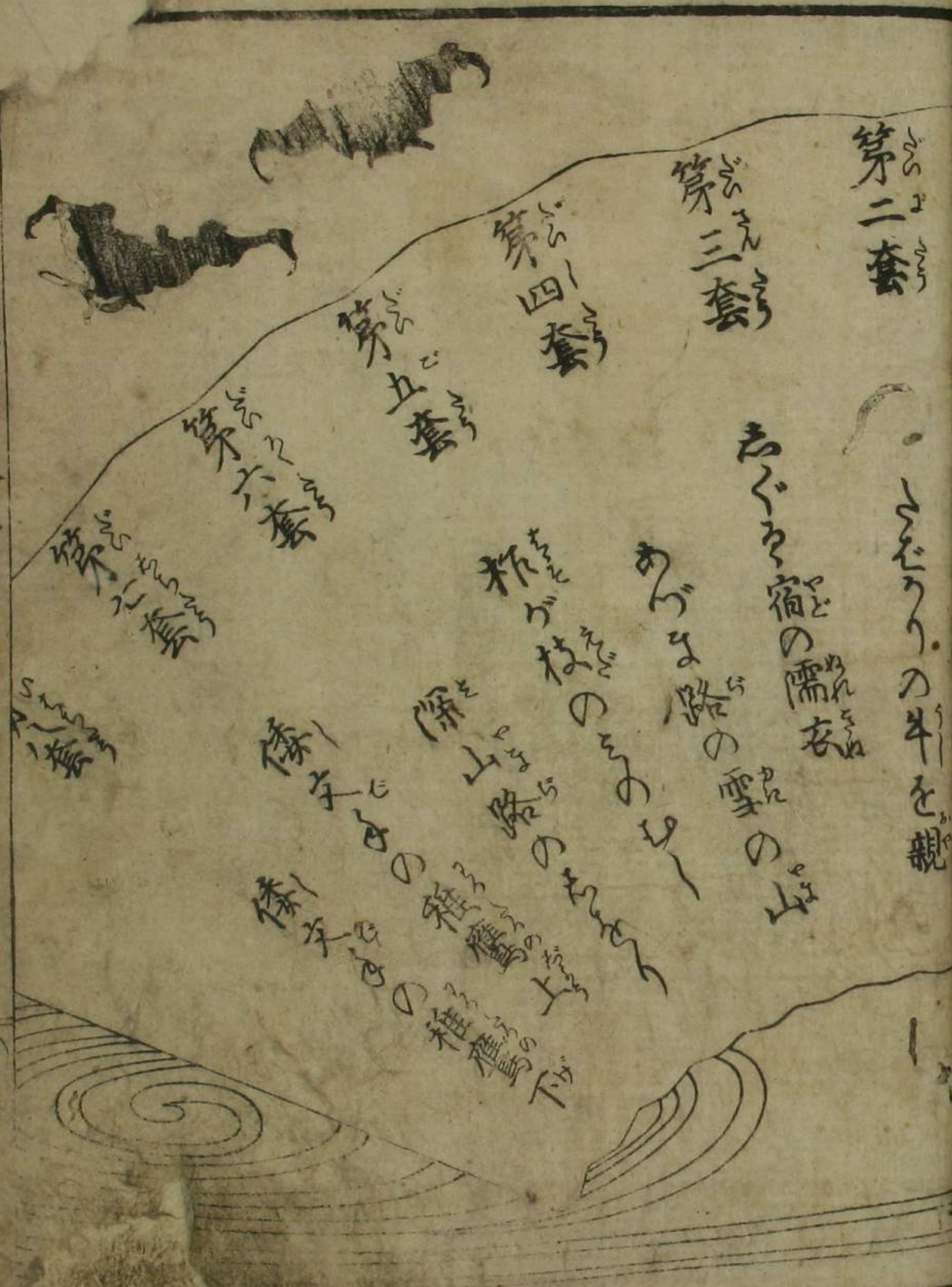
末

戲

場

回

以



名月や柳の

枝をそとく希久



第九套

卯月の翔雲雀

鏡山の朝雲布

第十套

録の無双遊の矢

加文山の體の矢

總目録



逢事者雲井
遙丹鳴神乃
音丹關筒戀
且鉞



鳴神上人



雲のしよ

雷獸の圖

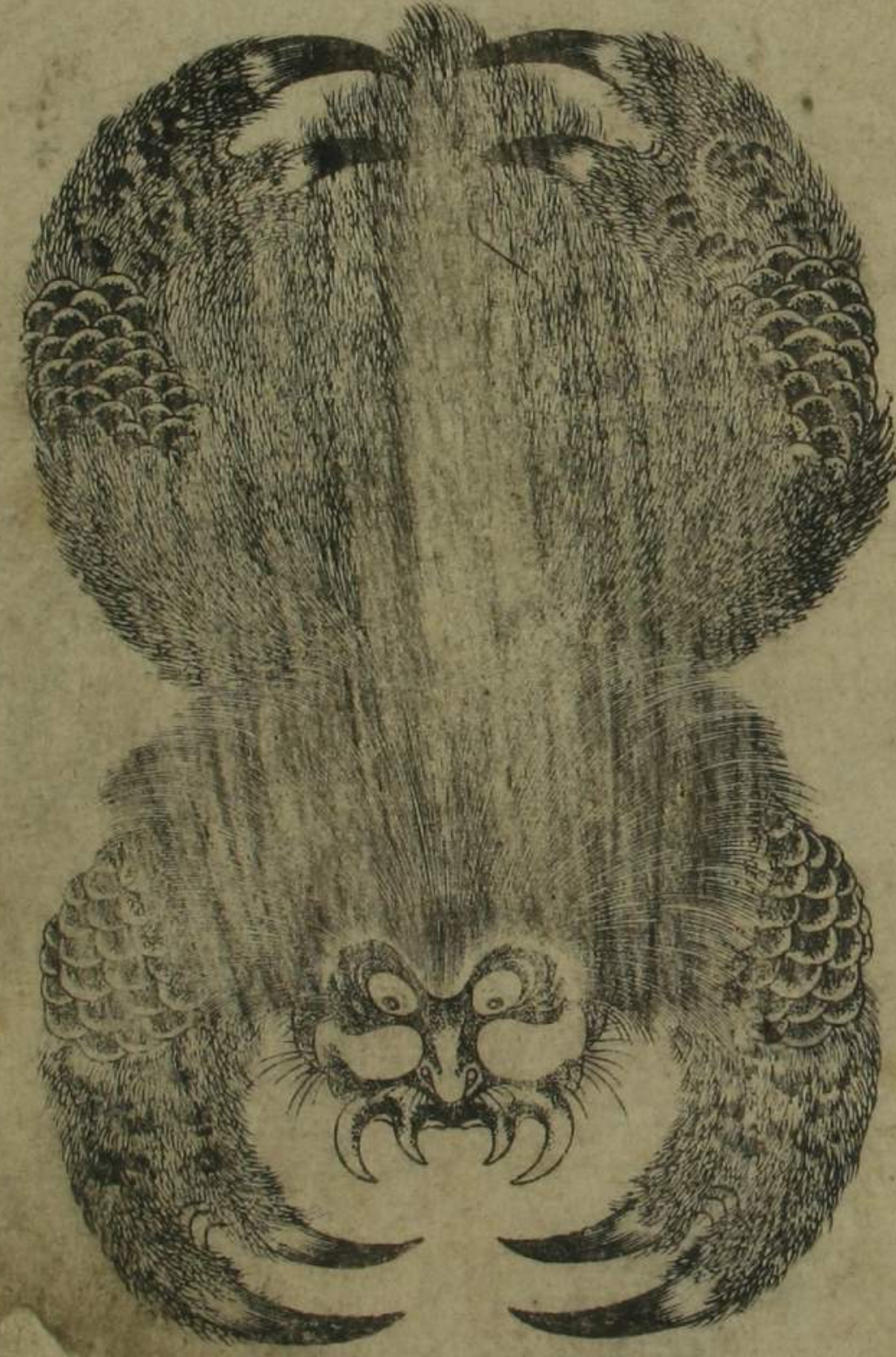
圖すところの獸ハ
 震雷記小出の
 書小云明和二年
 乙酉七月廿二日相別
 大山は落土人捕て
 東都小あつり。兩
 圓橋の上より。緩
 觀よりとつやと
 秋猫より大さ。略
 馳に似て毛も馳
 より黒。凡五本



今按ず小信濃名考
 二説之の著刊の雷

其二

其軟弱して人よ
 狎り兩やんと
 すとらハ盤て嘗
 びしんり
 ○又一種ハ近曾浪
 速人の版也。雨田次
 葉とゆふの小又え
 ころ。その書小云享
 和元年五月十日。此
 獸藝別九日市。其
 塩竈へ落て死す。
 六丁四寸のほど。



今按ず群書纂要子雷公
 猪の首より各兩の指ありといふこと

この外もさうく
あるべけれどその近
を却て證とす。

○雷鳥ハ加賀國

石川郡白山権現の
社の中ハあり。山

ノ雷との虫あり。形

蛙のふ。俗の鳥好

と彼虫を食ふ。故

小ず。雷鳥ハ

五雜俎ノ

謝約ハ虫の名あり

を杜鵑とも又謝

豹と云ふといふ

あは雷鳥ハ大サ

のふ。形も又鳩小

類。首ハ雞の雌小

似。由許難社あり

モハ黒白相雜と

其名石鶏といふの

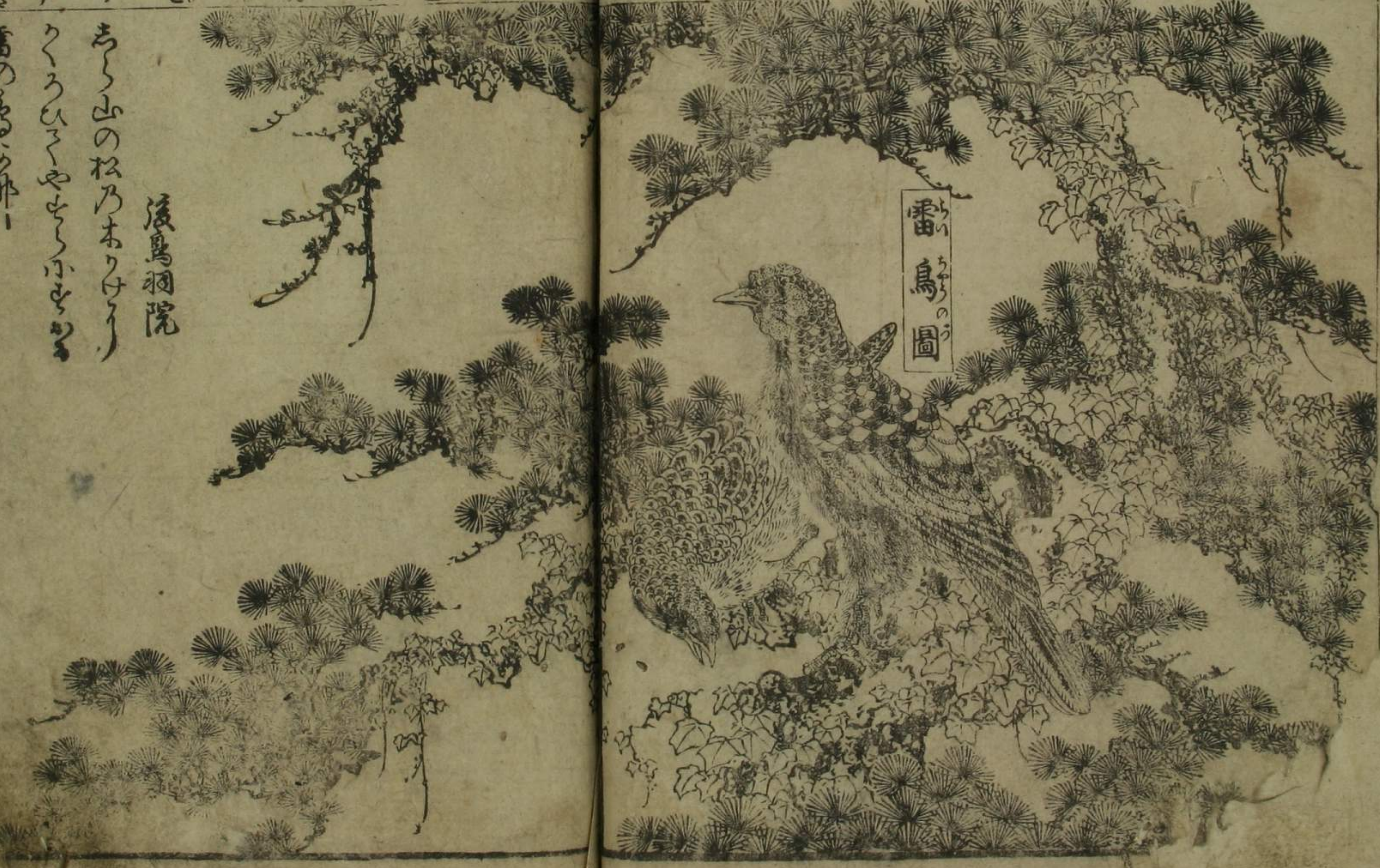
如くその足ハ毛あり

ニ彼外のみならず又

飛澤國兼鞍嶽小

もハ鳥鳥ありと

雷鳥の圖



後鳥羽院

あつ山の松乃ありけり

くろひやくやとく小と

雷のものハ

藤原家隆

あはさるり越のさる

まのそとつみさく夜を

雲色月

ふいありたる。亦あひつとさう。これの天魔の乗らるる。念を起させらるる。實は忘れし。住法師が山居の奇あり。

やぐやりの妻よが鹿の声も皆与實相不相違背と

詠ひて。尊の道なれ。これ過て。高祖大師許さぬ。

弥陀佛ことうら念い。是はやまり去る。夢路をたぐる。

あはえそ。あけとむ。寺小到。これ常の熟る。路の

ての行悞りんと不審と。えま。柴垣高く引よ。内は草

屋の棟をえ。近く琴の凡音やえ。遠くくつ声す。西登つ。小をトあ

神崎の長が家あるを曉得。意の中も。怪る。嚮の懸火の

すねの恋する人の。彼首此首と。繞る。北面

諸折戸の半開た。其如。水小富る。地方

池を掘。庭は芝生。奇石よ。秋の草花。假

よ。常盤木の間に黄櫨の。濃く染る。夕映も又。假

山の丸く高う。芝者丸が須弥山を。秋桃の更。紅

西王母が二千歳を。月日の。生れる。の。慾界

の仙窟。あ。世は法師。折る。女の童二。假

な。折戸の裏。小。忽比人の。ひす

さ。折。女。童二。假

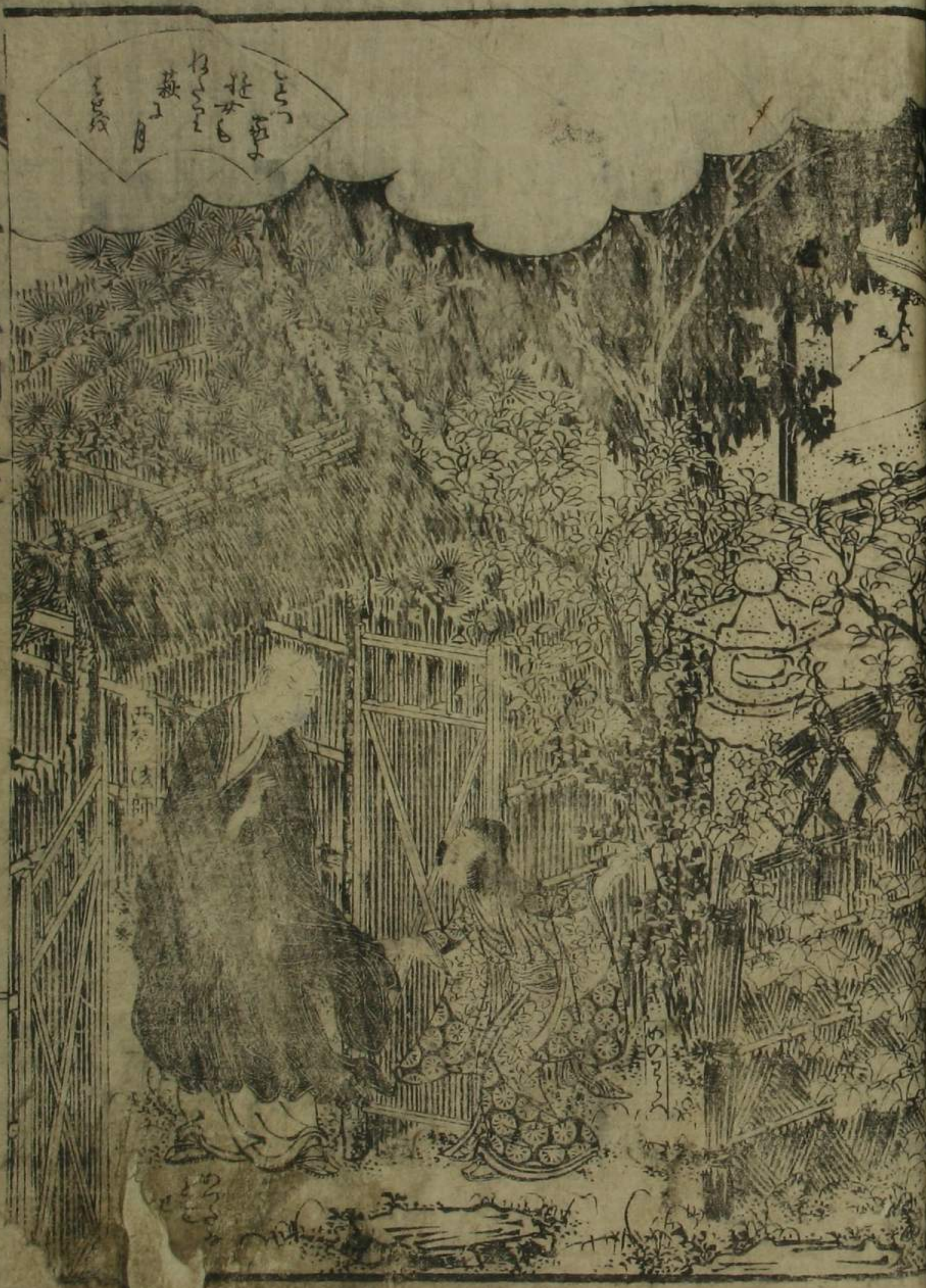
山の陰。蓮花の中。と。今

宵の指。折る。小。も。後

ら。誘ひ。と。あ。よ。迎

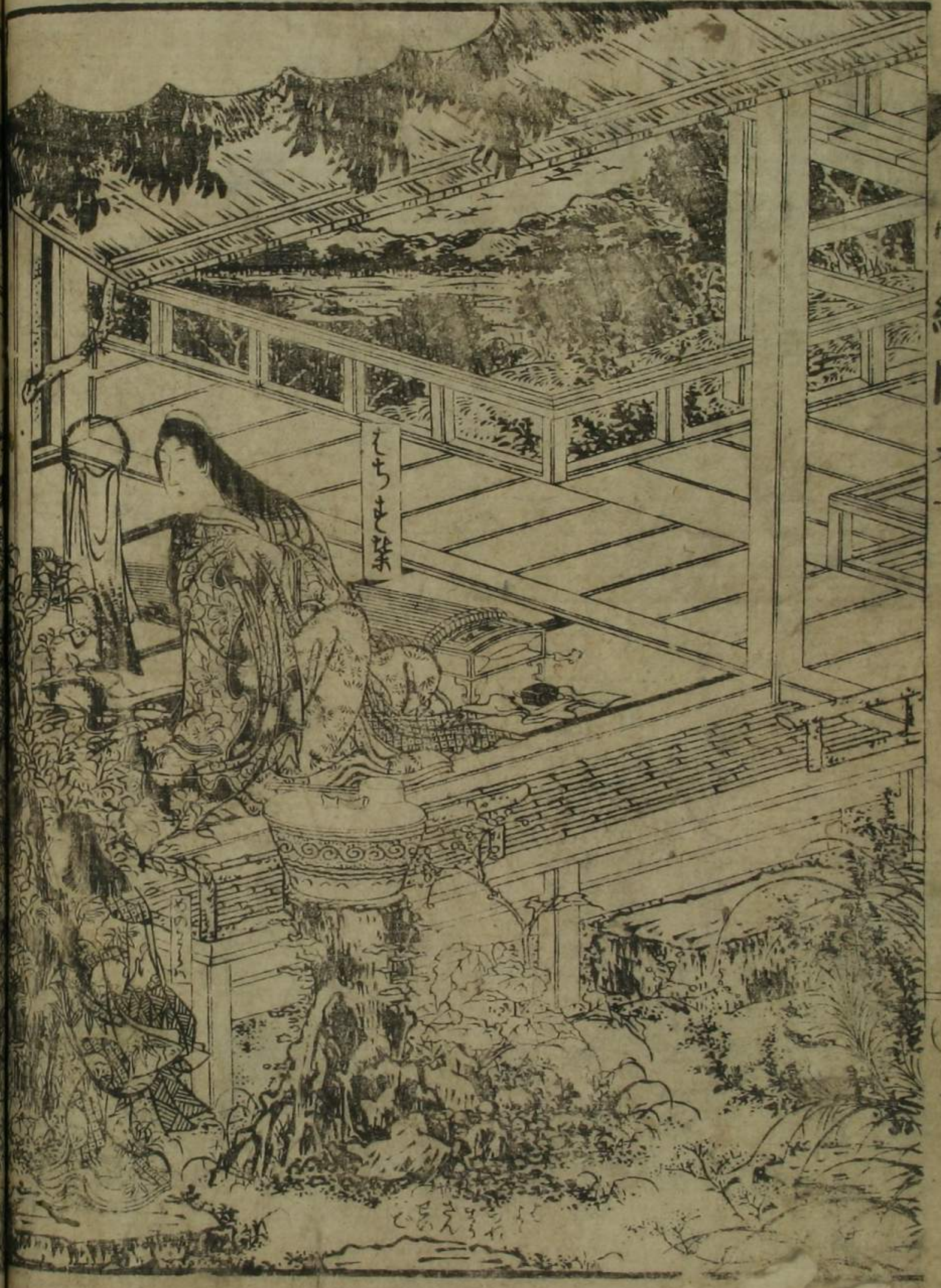
さ。西。思。憎。の。小

雲色月夜



しるし
北の
ねむ
蘇
月

雲色月夜



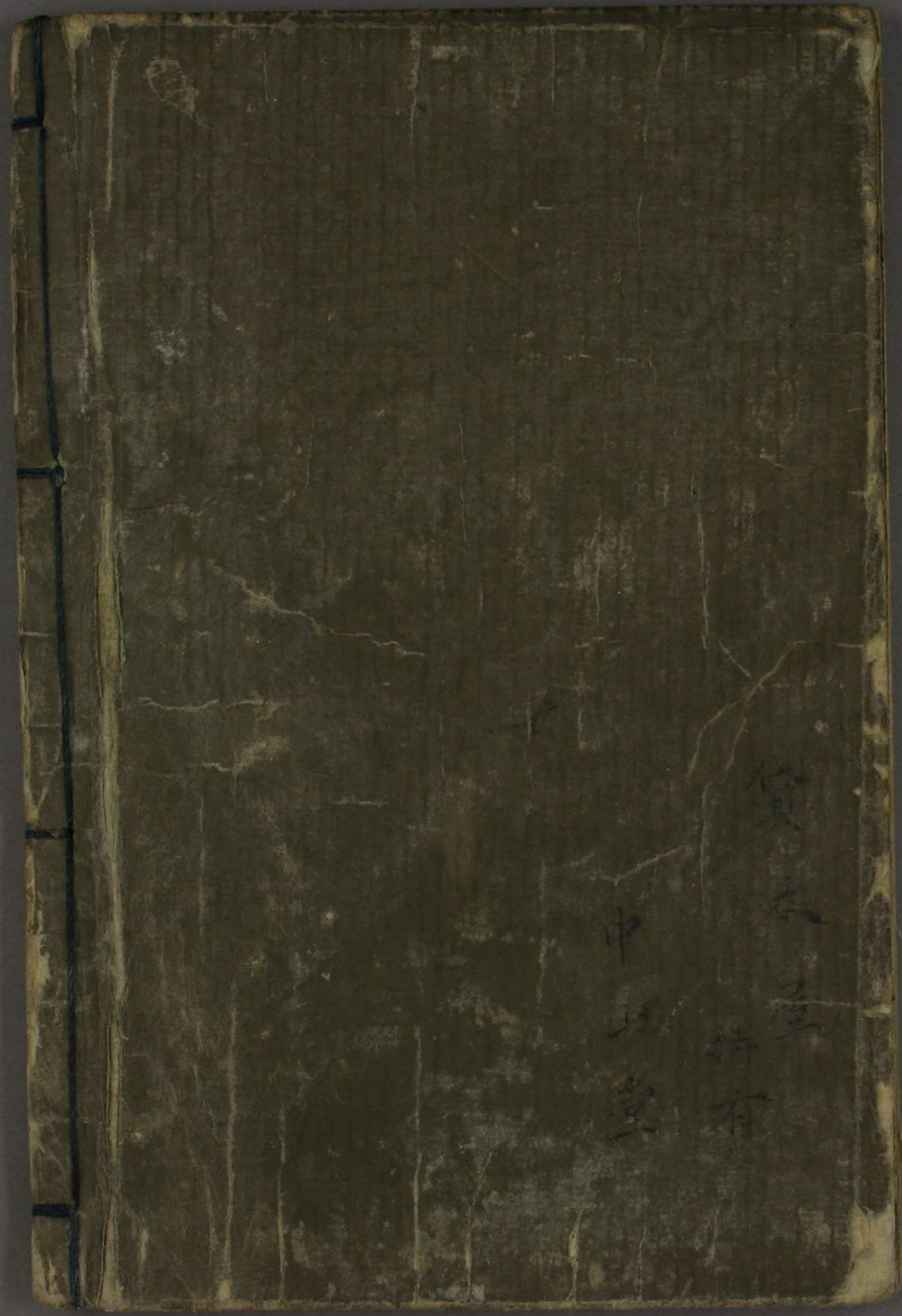
しるし

らむ。人づかみ。と回答もあつて。うらまらるる。遊んともる。成女の音
 (苗)のふらふら。ふゆべと。然と。ち咲く。そのまを思ふ。れぬ。いと。彼蓮
 葉の君とす。この花街は全盛はる。いづ。よその名。ゆえ。る。に。口
 の君も。か。と。け。ら。と。さ。る。う。小夜。と。う。客の。数。の。債。の。ま。砂。よ。と
 妻。い。日。と。定。め。く。来。ま。さ。る。す。あ。い。と。稀。く。さ。る。彼。さ。り。請
 せ。あ。い。と。世。よ。く。あ。ら。と。あ。れ。世。の中。と。い。と。ま。ま。と。を。の。こ。う。め。假
 の。宿。の。情。じ。は。足。く。と。い。と。戯。れ。と。く。聴。て。裡。に。冊。に。入。る。木。と。ら
 不。隔。く。向。の。方。よ。と。情。く。さ。る。中。女。あり。細。代。天。井。屋。の。う。と。を。累。と
 長。押。床。間。の。風。流。さ。る。さ。る。唐。木。の。造。り。調。度。又。倍。さ。る。す。と。
 琴。棋。書。画。知。ら。れ。た。よ。と。飾。さ。る。寄。麗。壯。觀。の。い。づ。も。あ。る。と。と
 女。の。堂。の。西。壁。を。上。げ。よ。居。る。一。人。の。う。ら。茶。を。さ。す。わ。れ。し。一。人。の。う。ら

ら。の。中。さん。と。く。奥。よ。ま。り。め。ぬ。を。あ。り。て。と。居。く。甚。禰。と。も。い。
 苗。奇。南。え。さ。く。と。蓮。と。い。と。晴。中。小。装。く。年。紀。の。れ。の。を。と。と。い。ひ。て
 二。と。い。と。と。と。入。る。花。女。西。壁。か。ほ。ら。う。ら。う。出。来。て。と。と。い。ひ。て
 會。釈。し。と。と。と。蓮。葉。と。い。れ。け。り。と。と。聖。傍。を。つ。る。席。に。迎。ま。わ。り。と
 ち。と。と。と。物。う。く。あ。ぼ。さん。が。仏。の。慈。悲。の。穢。土。を。嫌。ひ。ぬ。ん。と。と。う。け。ぬ。る。
 な。か。い。の。放。よ。中。に。濁。世。相。痛。の。要。門。凡。夫。出。離。の。直。路。と。い。ん。と。と。示。し
 み。ひ。ぬ。と。と。ら。咲。る。窓。止。の。如。末。の。三。十。二。相。も。遠。く。揚。る。を。指。し。つ。西。壁。と
 あ。や。み。胸。の。こ。い。と。裏。の。こ。い。も。應。と。と。背。向。よ。見。す。つ。け。か。い
 なる。と。と。罪。障。あ。る。身。と。と。り。て。後。世。の。い。と。ま。と。あ。ん。と。い。と。有。が。と
 と。と。と。蓮。葉。も。と。と。れ。と。と。か。き。き。と。と。と。物。ま。か。い。と。と。と。と。
 この。時。日。も。暮。れ。た。女。の。童。の。障。子。建。て。て。菊。燈。臺。小。丁。を。と。と。り。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 10 lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect than the surrounding text. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 10 lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect than the surrounding text. The handwriting is fluid and somewhat slanted.



寶
人
堂

中
山
堂